

# 定期作況報告

(第6号 平成25年10月20日現在)  
地方独立行政法人北海道立総合研究機構  
農業研究本部 上川農業試験場

## 1. 気象概況

9月下旬：最高気温は平年より0.2℃低く、最低気温も平年より0.9℃低かった。降水量は平年より7.8mm多く、平年対比121%であった。降水日数は平年より3日少なかった。日照時間は平年より1.3時間多く、平年対比103%であった。

10月上旬：最高気温は平年より1.7℃高く、最低気温も平年より1.8℃高かった。降水量は平年より34.5mm少なく、平年対比9%であった。降水日数は平年より2日少なかった。日照時間は平年より6.0時間多く、平年対比112%であった。

10月中旬：最高気温は平年より2.2℃低く、最低気温も平年より0.7℃低かった。降水量は平年より13.2mm多く、平年対比138%であった。降水日数は平年並であった。日照時間は平年より10.0時間少なく、平年対比76%であった。

9月下旬から10月中旬までの気象は表1のとおりである。

表1 気象

調査項目	9月下旬			10月上旬			10月中旬			平均または合計		
	本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較
最高気温(℃)	19.2	19.4	▲0.2	19.2	17.5	1.7	13.1	15.3	▲2.2	17.2	17.4	▲0.2
最低気温(℃)	7.1	8.0	▲0.9	7.9	6.1	1.8	3.4	4.1	▲0.7	6.1	6.1	0.0
平均気温(℃)	13.3	13.3	0.0	13.5	11.3	2.2	8.1	9.4	▲1.3	11.6	11.3	0.3
降水量(mm)	45.0	37.2	7.8	3.5	38.0	▲34.5	47.5	34.3	13.2	96.0	109.5	▲13.5
降水日数(日)	2	5	▲3	3	5	▲2	6	6	0	11	16	▲5
日照時間(hr)	50.1	48.8	1.3	55.4	49.4	6.0	32.3	42.3	▲10.0	137.8	140.5	▲2.7

注1) 比布アメダス観測値。

2) 平年は比布アメダス前10カ年の平均値。

3) ▲印は平年に比べて減を示す。

## 1) 水 稲：やや良

5月20日現在作況：やや不良

事由：播種は平年より1~2日遅い4月15日に行った。育苗期間中は平年より低温寡照に推移したため、出芽揃に日数を要し、苗の生育は停滞した。移植は平年より1日遅い5月20日に行った。

移植時の草丈は平年より1.6~3.6cm低く、主稈葉数は平年より0.6~0.8枚少なく、茎数は平年より0.6~0.9本少なく、第1葉鞘高は平年より0.2~0.4cm高く、地上部乾物重は平年より1.21~2.02g軽かった。移植時の苗素質は平年を下回った。

したがって、目下の作況は「やや不良」である。

6月20日現在作況：やや良

事由：5月末から6月中旬にかけて平年より高温多照に推移したため、活着および初期生育は良好であった。生育は移植時の遅れを取り戻し、平年よりやや進んだ。

6月20日現在、主稈葉数は平年より0.2~0.4枚多く、 $m^2$ あたり茎数は平年より39~56%多く、草丈は平年より5.0~9.5cm高い。

したがって、目下の作況は「やや良」である。

7月20日現在作況：やや良

事由：7月上旬から中旬にかけて平年より高温多照に推移したため、生育は平年よりかなり進んだ。幼穂形成期は平年より3~4日、止葉期は平年より4~5日、出穂期は平年より6~9日それぞれ早かった。穂揃日数は平年より1~2日短く、止葉葉数は平年並から0.6枚少なかった。

7月20日現在、主稈葉数は平年並から0.6枚少ないが、草丈は平年より3.5~8.6cm高い。生育進度は平年よりかなり速いが、 $m^2$ あたり茎数は平年より10~21%多い。

したがって、目下の作況は「やや良」である。

8月20日現在作況：良

事由：7月下旬から8月中旬までの平均気温は平年よりやや高く、日照時間は平年並であった。出穂期後30日目の登熟歩合は平年より3.7~11.5ポイントそれぞれ高かった。

成熟期の稈長は平年並から4.6cm長く、穂長は平年並で、 $m^2$ あたり穂数は平年より9~21%それぞれ多かった。

したがって、目下の作況は「良」である。

9月20日現在作況：良

事由：8月下旬から9月上旬にかけて平年より低温寡照であったものの、8月中旬までに生育と登熟が進んでいたため、成熟期は平年より8日から12日早く、登熟日数は平年より1日から3日短かった。

成熟期において、平年に比べ $m^2$ あたり穂数は9~21%多く、一穂粒数は2~8%少なかった。 $m^2$ あたり粒数( $m^2$ あたり穂数×一穂粒数)は、 $m^2$ あたり穂数が多かったため、8~13%多かった。稔実歩合は1.8~4.7ポイント高かった。登熟歩合は0.8~8.4ポイント高かった。

したがって、目下の作況は「良」である。

10月20日現在作況：やや良

事由：精玄米千粒重は平年比100～102%で、平年並からやや重かった。精玄米重は「ほしのゆめ」が653kg/10a、「きらら397」が654kg/10a、「ななつぼし」が663kg/10a、「ゆめぴりか」が653kg/10aであった。収量平年比はそれぞれ107、103、101、109%で、4品種の平均は105%だった。

したがって、目下の作況は「やや良」である。

表2 水稻の生育

項目	品種名 /年次	ほしのゆめ			きらら397			ななつぼし			ゆめぴりか			
		本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較	
生育期節	播種期 (月日)	4.15	4.13	2	4.15	4.13	2	4.15	4.13	2	4.15	4.14	1	
	移植期 (月日)	5.20	5.19	1	5.20	5.19	1	5.20	5.19	1	5.20	5.19	1	
	幼穂形成期 (月日)	6.20	6.24	△4	6.22	6.26	△4	6.20	6.23	△3	6.21	6.25	△4	
	止葉期 (月日)	7.05	7.10	△5	7.07	7.12	△5	7.06	7.10	△4	7.05	7.11	△5	
	出穂期 (月日)	7.15	7.22	△7	7.17	7.24	△7	7.16	7.22	△6	7.14	7.23	△9	
	成熟期 (月日)	8.28	9.06	△9	9.04	9.12	△8	9.01	9.10	△9	8.29	9.10	△12	
	穂揃日数 (日)	6	8	△2	6	7	△1	7	8	△1	7	8	△1	
	登熟日数 (日)	44	46	△2	49	50	△1	47	49	△2	46	49	△3	
	生育日数 (日)	135	146	△11	142	152	△10	139	149	△10	136	150	△14	
移植時	草丈 (cm)	11.7	13.3	▲1.6	10.1	13.2	▲3.1	10.5	14.0	▲3.5	10.7	14.3	▲3.6	
	葉数 (枚)	3.4	4.0	▲0.6	3.5	4.3	▲0.8	3.4	4.2	▲0.8	3.6	4.4	▲0.8	
	茎数 (本)	1.2	2.1	▲0.9	1.4	2.0	▲0.6	1.1	1.9	▲0.8	1.5	2.1	▲0.6	
	第1葉鞘高 (cm)	3.0	2.6	0.4	2.8	2.5	0.3	2.8	2.6	0.2	2.8	2.5	0.3	
	地上部乾物重 (g/100本)	3.07	4.28	▲1.21	3.00	4.38	▲1.38	3.22	4.58	▲1.36	3.14	5.16	▲2.02	
本田生育	葉数 (枚)	6月20日	8.4	8.0	0.4	8.8	8.6	0.2	8.4	8.2	0.2	8.7	8.4	0.3
		7月20日	10.1	10.1	0.0	10.8	11.2	▲0.4	10.0	10.5	▲0.5	10.2	10.8	▲0.6
	止葉葉数	10.1	10.1	0.0	10.8	11.2	▲0.4	10.0	10.5	▲0.5	10.2	10.8	▲0.6	
	茎数 (本/㎡)	6月20日	878	614	264	900	647	253	792	543	249	922	590	332
		7月20日	901	792	109	861	784	77	813	723	90	923	764	159
	草丈 (cm)	6月20日	43.0	36.6	6.4	38.5	33.5	5.0	46.5	38.8	7.7	44.3	34.8	9.5
	7月20日	85.9	79.5	6.4	77.4	73.9	3.5	86.4	83.0	3.4	84.5	75.9	8.6	
	出穂期後	20日目	29.5	15.7	13.8	22.9	14.4	8.5	17.2	13.4	3.9	18.9	11.9	7.0
	登熟歩合 (%)	30日目	75.1	63.6	11.5	74.4	62.9	11.5	62.3	58.6	3.7	65.5	54.2	11.3
		40日目	85.2	83.5	1.7	82.2	81.7	0.5	84.3	84.1	0.2	83.7	74.8	8.9
成熟期	稈長 (cm)	69.3	64.7	4.6	62.8	62.8	0.0	69.1	68.5	0.6	66.1	65.3	0.8	
	穂長 (cm)	16.3	16.3	0.0	17.0	16.8	0.2	17.3	17.0	0.3	17.1	16.6	0.5	
	穂数 (本/㎡)	843	737	106	805	702	103	722	660	62	860	713	147	
収量構成要素	一穂粒数 (粒)	42.1	42.8	▲0.7	41.1	43.4	▲2.3	49.6	50.4	▲0.8	40.4	44.1	▲3.7	
	㎡あたり粒数 (×千)	35.5	31.4	4.1	33.1	30.2	2.9	35.8	33.3	2.5	34.7	31.4	3.3	
	稔実歩合 (%)	95.9	94.1	1.8	96.7	94.4	2.3	97.6	95.4	2.2	94.3	89.6	4.7	
	登熟歩合 (%)	89.9	87.4	2.5	87.4	86.1	1.3	91.3	90.5	0.8	88.4	80.0	8.4	
	籾摺歩合 (%)	80.8	79.9	0.9	82.2	80.4	1.8	82.3	81.6	0.7	81.0	78.3	2.7	
	屑米歩合 (%)	3.0	2.6	0.4	1.6	1.9	▲0.3	1.9	1.5	0.4	2.2	3.3	▲1.1	
精玄米千粒重 (g)	22.9	22.6	0.3	23.6	23.4	0.2	22.5	22.5	0.0	23.1	22.6	0.5		
収量	藁重 (kg/10a)	623	630	▲7	592	604	▲12	633	639	▲6	598	664	▲66	
	精籾重 (kg/10a)	808	761	47	794	790	4	805	803	2	808	764	44	
	精玄米重 (kg/10a)	653	608	45	654	635	19	663	655	8	653	598	55	
	収量平年比 (%)	107	100	7	103	100	3	101	100	1	109	100	9	
	検査等級 (等)		1下			1下			1下			1下		

注 1) 「ほしのゆめ」「きらら397」「ななつぼし」の平年値は前7カ年の中、平成20年、平成21年を除く5カ年の平均。

「ゆめぴりか」の平年値は前5カ年の平均。

2) △は平年に比べ「早」、▲は平年に比べ「減」を示す。

3) 苗代耕種概要 育苗様式：成苗ポット苗

施肥量：成分量で㎡あたり、床土 N 3.0g, P 7.2g, K 3.0g、置床 N 27.0g, P 34.0g, K 18.0g

4) 本田耕種概要 栽植密度：25.3株/㎡ (33.0cm×12.0cm)、3本植

施肥量：成分量で10aあたり、N 8.0kg, P 9.7kg, 6.9kg, 堆肥1,000kg

5) 精玄米千粒重・精玄米重：網目1.90mm以上、水分15%換算

2) 秋まき小麦：平年並

平成 25 年

9 月 20 日現在

平年より 4 日早い 9 月 11 日に播種を行った。出芽期は 9 月 20 日で平年より 4 日早い。

10 月 20 日現在：平年並

事由：現在のところ、平年と比較して葉数がやや多く、生育は進んでいる。草丈は高いが、茎数はやや少ない。

したがって、目下の作況は「平年並」である。

表 3 10 月 20 日の秋まき小麦の生育

品 種 名		きたほなみ		
項 目	年次	本 年	平 年	比 較
播種期	(月.日)	9.11	9.15	△ 4
出芽期	(月.日)	9.20	9.24	△ 4
出穂期	(月.日)		6.06	
成熟期	(月.日)		7.18	
越冬茎歩合	(%)		121.5	
雪腐病発病度			10.1	
葉数(枚)	平25年10月20日	5.1	4.4	0.7
草丈 (cm)	平25年10月20日	20.3	17.8	2.5
	平26年 5月20日		41.3	
	平26年 6月20日		89.6	
茎数 (本/m <sup>2</sup> )	平25年10月20日	717	747	▲ 30
	平26年 5月20日		1277	
	平26年 6月20日		689	
成 熟 期	稈長 (cm)		81	
	穂長 (cm)		8.6	
	穂数(本/m <sup>2</sup> )		656	
子実重	(kg/10a)		676	
同上	平年比 (%)		100	
リットル重	(g)		799	
千粒重	(g)		40.1	
検査等級	(等)			-

注 1) 平年値は、前 7 か年中、平成 19 年、22 年（収穫年度）を除く 5 か年の平均値。

2) △は平年より早、▲は平年より減を示す。

※ 9 月発表の秋まき小麦の平年値に誤りがありましたので、以下のように訂正いたします。

文章 誤) 平年より 1 日早い 9 月 11 日に播種を行った。

正) 平年より 4 日早い 9 月 11 日に播種を行った。

表 3 誤) 播種期 平年 9.12

正) 播種期 平年 9.15

3) 大 豆： やや不良

6月20日現在：良

事由：播種期は平年並の5月22日であった。播種直後に降水があり、5月第6半旬以降は高温に経過したため、出芽期は平年より3日早い6月1日であった。出芽期以降もかなり高温に経過したため、主茎長、主茎節数とも平年を大幅に上回っている。

したがって、目下の作況は「良」である。

7月20日現在：やや良

事由：7月2日の突風を伴う豪雨により、葉に穴が開き、茎はなびいたが、その後ほぼ回復した。6月下旬を除き高温に経過したため、開花期は平年より6日早かった。主茎長はほぼ平年並で、分枝数は平年よりやや多い。

したがって、目下の作況は「やや良」である。

8月20日現在：やや不良

事由：著しい高温、少雨により主茎長は前報からほとんど伸びておらず、倒伏は発生していない。分枝数は平年より多いが、干ばつの影響で着莢数は平年より少ない。

したがって、目下の作況は「やや不良」である。

9月20日現在：やや不良

事由：成熟期は平年より5日早かった。主茎長は平年より10cm以上短く、分枝数はほぼ平年並であったが、着莢数は平年より11個少ない。

したがって、目下の作況は「やや不良」である。

10月20日現在：やや不良

事由：百粒重は平年より1.2g重かったが、登熟後半から成熟期にかけての多雨により、屑粒率は平年に比べて高かった。そのため子実重は平年比96%とやや低収であった。

したがって、目下の作況は「やや不良」である。

表4 大豆の生育および収量

品 種 名		ユキホマレ		
項 目	年次	本 年	平 年	比 較
播種期	(月.日)	5.22	5.22	0
出芽期	(月.日)	6.01	6.04	△ 3
開花期	(月.日)	7.06	7.12	△ 6
成熟期	(月.日)	9.17	9.22	△ 5
主茎長 (cm)	6月20日	18.2	11.8	6.4
	7月20日	64.4	63.8	0.6
	8月20日	65.6	71.1	▲ 5.5
	成熟期	61.2	72.8	▲ 11.6
主茎 節数 (節)	6月20日	6.0	4.3	1.7
	7月20日	10.5	10.2	0.3
	8月20日	10.4	10.4	0.0
	成熟期	10.2	10.6	▲ 0.4
分枝数 (本/株)	7月20日	7.5	6.7	0.8
	8月20日	8.3	7.0	1.3
	成熟期	5.6	5.8	▲ 0.2
着莢数 (個)	8月20日	70	87	▲ 17
	成熟期	65	76	▲ 11
子実重	(kg/10a)	409	427	▲ 18
同上	平年比 (%)	96	100	▲ 4
百粒重	(g)	38.9	37.7	1.2
屑豆率	(%)	4.5	2.9	1.6
検査等級	(等)		2中	-

注 1) 平年値は、前7か年中、平成18年、22年を除く5か年の平均値。  
 2) △は平年より早、▲は平年より減を示す。

4) 小 豆：不良

6月20日現在：良

事由：播種期は平年より3日早い5月22日であった。播種直後に降水があり、5月第6半旬が高温、6月第1半旬がやや低温に経過したため、出芽期は平年より3日早い6月6日であった。出芽期以降、かなり高温多照に経過したため、主茎長、本葉数とも平年を上回っている。

したがって、目下の作況は「良」である。

7月20日現在：良

事由：6月下旬はやや低温に経過したが、7月以降高温多照に経過し、適度に降水もあったため、主茎長、本葉数とも平年をやや上回っている。また、旺盛な生育のため、本来花芽となる第3本葉及び第4本葉節の腋芽が分枝となっている個体が多く、分枝数は平年を大きく上回っている。

したがって、目下の作況は「良」である。

8月20日現在：不良

事由：7月中旬以降8月8日まで降水量が非常に少なく、高温多照に経過したため、7月末頃から圃場は著しい干ばつ状態となった。そのため、本葉数は平年をやや上回っているが上位葉が小さく、主茎長は平年よりかなり短い。また、分枝数は平年より多いが、着莢数は中位節での落莢が多かったため平年を大きく下回っている。

したがって、目下の作況は「不良」である。

9月20日現在：不良

事由：成熟期は平年より6日早かった。主茎長、主茎節数は8月20日以降ほとんど変わらず平年並み、分枝数は平年より多かったが、着莢数は平年の約8割にとどまった。開花期前半までの著しい干ばつとその後の多雨のため、二次栄養成長が見られて著しく葉落ちが悪かった。また、8月下旬以降ほぼ毎日降水があり、地表に接した下位の莢の多くで莢内発芽が認められ、屑粒率が高く品質が低下することが見込まれる。

したがって、目下の作況は「不良」である。

10月20日現在：不良

事由：百粒重は平年より重かった。しかし、登熟後半から成熟期にかけての多雨により、発芽粒や腐敗粒が多く、屑粒率は平年に比べて高かった。そのため子実重は平年比84%と低収であった。

したがって、目下の作況は「不良」である。

表5 小豆の生育および収量

品 種 名		エリモシヨウズ		
項 目 \ 年次		本 年	平 年	比 較
播種期	(月.日)	5.22	5.25	△ 3
出芽期	(月.日)	6.06	6.10	△ 4
開花期	(月.日)	7.21	7.22	△ 1
成熟期	(月.日)	8.29	9. 4	△ 6
主茎長 (cm)	6月20日	5.6	4.5	1.1
	7月20日	38.2	34.4	3.8
	8月20日	53.7	71.2	▲ 17.5
	成熟期	52.8	76.0	▲ 23.2
本葉数 (枚)	6月20日	2.3	1.0	1.3
	7月20日	10.3	9.3	1.0
	8月20日	13.6	13.0	0.6
主茎節数 (節)	成熟期	15.0	14.9	0.1
分枝数 (本/株)	7月20日	8.3	5.7	2.6
	8月20日	7.3	5.5	1.8
	成熟期	6.7	5.0	1.7
着莢数 (個/株)	8月20日	42	60	▲ 18
	成熟期	47	59	▲ 12
子実重	(kg/10a)	271	323	▲ 52
同上	平年比 (%)	84	100	▲ 16
百粒重	(g)	13.6	12.0	1.6
脣豆率	(%)	7.9	2.2	5.7
検査等級	(等)		3中	-

注 1) 平年値は、前7か年中、平成19年、平成20年を除く5か年の平均値。

2) △は平年より早、▲は平年より減を示す。